地域文化資源データの共創のための汎用プラットフォームの開発

山下俊介　卓　彦伶（北海道大学）　高田良宏（金沢大学）　堀井　洋（合同会社AMANE）
川邊咲子　橋本雄太（国立歴史民俗博物館）　中村圭佑（士別市立博物館）

着想に至った経緯・背景

地域住民と対話し資料情報を収集・記録・整理する“対話型地域資料情報収集”

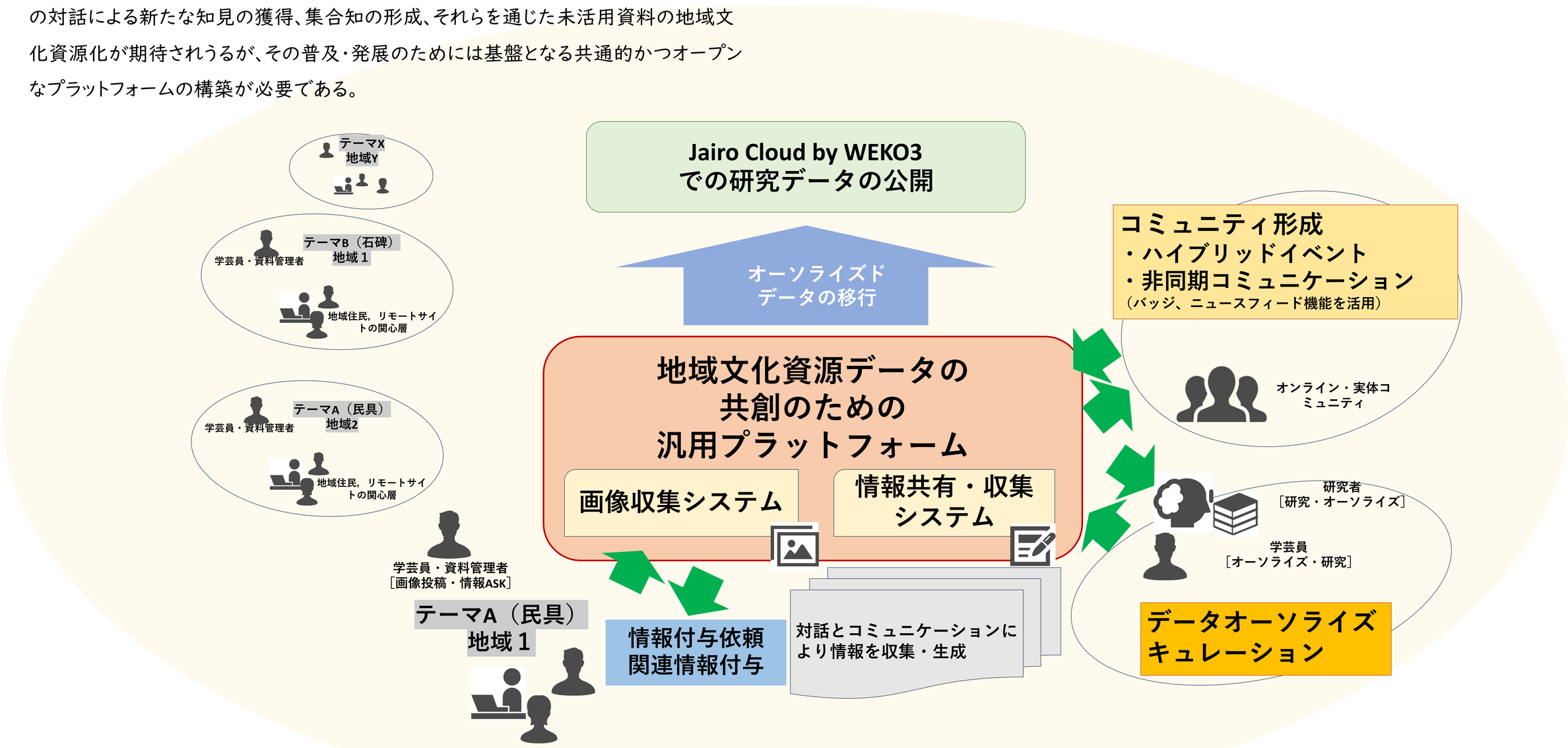
古文書や古写真・民具などの地域資料を研究対象とする人文学分野では、地域資料の所在や概要とともに、過去のどのような状況においてそれらが生成され、どのように使用されたのか、などの来歴についての基礎的な資料情報の収集・整理が重要である。

地域資料情報をオンライン上で収集することにより、相互に離れた地域住民と研究者との対話による新たな知見の獲得、集合知の形成、それらを通じた未活用資料の地域文化資源化が期待されうるが、その普及・発展のためには基盤となる共通的かつオープンなプラットフォームの構築が必要である。

本プロジェクトの目的

地域文化資源データの共創のための汎用プラットフォームの開発

地域文化資源を抱える当地の住民・学芸員に加え，リモートサイトの研究者や関心のある市民らとともにコミュニティを形成し，未活用地域文化資源から研究データや新しい価値を共創する汎用プラットフォームを開発することを目標とする。同期／非同期コミュニケーションを通して情報を収集・蓄積し，オーソライズされたデータを公開基盤から発信する。学術分野や社会での当該分野データ活用を大きく促進する。



プロジェクト概要図

民具資料を対象に資料情報集のための現地＋オンラインでのハイブリッドイベント（２０２２年１０月１日：北海道士別市）

実施目的：

- 地域の民具資料の保存と活用を進めるため、資料管理者や地域住民、隣接あるいは遠隔地域の知識保有者や研究者、その他関係者等と資料情報を共有しするための仕組みの構築
- 多様なステークホルダーを巻き込むことによって、いかなる資料情報が得られるかを検討し、それらを共有・整備するために適したプラットフォーム要件の検討

◆主催　学術資源リポジトリ協議会，士別市立博物館，合同会社AMANE
◆協力　2022NII共同研究，科研費（20H01382，22K18485，21K01073）

今後の展開

１．地域資料情報収集のための市民参加型プラットフォームの実装

- 資料を所蔵する地域博物館・自治体・一般市民が資料情報を収集・共有するための基盤となるプラットフォーム
- 資料情報を共有・キュレーションするためのサーバーシステム　および　一般市民がスマートフォン上で仕様することを想定したアプリケーションから構成。
- 収集した資料画像などのデータを学術研究データとして共有・利活用するための仕組みの実現

２．地域資料の保存・継承への関心を喚起するコミュニティの構築

- 本プラットフォームを中心として、地域住民からなるユーザーの獲得およびコミュニティの構成
- 研究者・学芸員などの専門家と地域住民とのオンライン上での非同期な交流の実現による地域資料への興味・関心の醸成と、収集データの学術研究データとしての利活用の可能性
- 市民参加型プラットフォームを基盤とした新たなシチズンサイエンスの実現

３．事業終了後の展開

申請者グループを含むコミュニティ（一般社団法人学術資源リポジトリ協議会 https://www.repon.org/）が、開発したシステムの管理運営とOSS（汎用プラットフォーム）提供を行い、地域文化資源分野の研究データを継続的に生成、学術・文化利用を促進を目指す。